

対話的ギャラリートーク型鑑賞指導の教材に関する考察【4】

— 『MITE! ティーチャーズキット1』 『同2』 を用いた実践から —

吉田 貴富

A Study of Teaching Materials (Works of Art)
Used for Interactive Gallery Talk Method Type Appreciation 【4】
— Practice Using “MITE! TEACHER’S KIT 1” & “MITE! TEACHER’S KIT 2” —

YOSHIDA Takatomi
(Received January 11, 2011)

キーワード：美術教育、鑑賞、対話型鑑賞、教材

1. 経緯と目的

本稿は、吉田貴富「対話的ギャラリートーク型鑑賞指導の教材に関する考察—『MITE! ティーチャーズキット1』を用いた実践から—」（大学美術教育学会誌第40号、2008年）、「対話的ギャラリートーク型鑑賞指導の教材に関する考察【2】—『MITE! ティーチャーズキット2』を用いた実践から—」（同誌第41号、2009年）「対話的ギャラリートーク型鑑賞指導の教材に関する考察【3】—『MITE! ティーチャーズキット3』を用いた実践から—」（山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要第30号、2010年）の継続研究である。

対話型ギャラリートークを学校現場に応用する際にしばしば疑問や悩みとして上がるのが作品選定の問題である。そこに登場したのが『MITE! ティーチャーズキット』であった¹⁾。このキットは、具体的なマニュアルやシミュレーション事例と作品の図版が掲載された冊子、それにパソコンによる投影を前提として作品の画像データを収めたCD-ROMがセットになった形式で全3巻編成。第1巻が小学校3・4年生対象、第2巻が小学校5・6年生対象、第3巻が中学生対象であることが、ケース・冊子・CD-ROMに明記されている。各巻とも10のレッスンから成り、各レッスンには一定のテーマや共通点を持った3枚の図版が選定されている。

本研究の目的は、このキットに選定されている作品の、対話的ギャラリートーク型鑑賞における教材としての適性を検証することである。

本キット各巻のケースには「小学校3年生以上であれば何年生からでも有効です。各巻には対象学年が表示されていますが、作品の順序は鑑賞を徐々に深めていくよう配慮されていますので、年齢を問わず1巻から始めることをおすすめします」と記されている（これを便宜的に「条件①」とする）。この記述は、上述の「第1巻が小学校3・4年生対象、

第2巻が小学校5・6年生対象、第3巻が中学生対象」（これを便宜的に「条件②」とする）と矛盾する。

筆者はこれまで、実験（実践）の可能性を優先し、大学生を対象としてこのキットを実践してきた。その際に、上記の互いに矛盾する条件のいずれに則して教材を採用すればよいのが問題となった。つまり、年齢的な発達段階からは条件②に即して第3巻を用いるべきであるが、経験度からは条件①に即して第1巻を採用すべきである。

本研究を進めるにあたり、実践上の時間的な制約から、論考【2】においては第1巻を経験させることなく第2巻を、論考【3】においては第1巻・第2巻を経験させることなく第3巻を実践した（これらを便宜上「単発実践」と呼ぶ）が、今回は、第1巻と第2巻を連続して用いた実践（これを便宜上「積み上げ実践」と呼ぶ）の結果を基に、主に第2巻について、そこに掲載された作品の、この手法の教材としての適性について考察を進めるとともに、先述した矛盾する条件の適否について考察するものである。

なお、本キットを用いての実践や研究会は各地で大小様々なものが行われているが、キット1巻を通して実践した記録の発表は本研究以前には例がなく、積み上げ式に第1巻と第2巻を実践した記録の発表や考察も前例がない。

2. 方法

2-1 対象

これまでと同様に、実践の可能性を優先し大学生を対象とした。

2-2 実験（実践）に用いた授業

執筆者が山口大学において担当している共通教育「芸術史（美術史）」の授業を用いた。開設期は2010年度前期、第1セメスター。水曜日3・4時限。対象者は全学部。受講者数（受講登録者数ではなく、最終回まで受講した人数）は37名。

第1巻と第2巻の全20レッスンを、原則的に毎回2レッスンずつ順次実践していった。

各作品に関する基礎データ（作者名、タイトルなど）について、主としてティーチャーズキットに掲載されている情報をプリントにして毎回授業後に配付した。

2-3 記録

前年度はファシリテーターとしての授業者がICレコーダーを持って発言者の近くへ行き音声を直接録音したが、この方法では発言者・鑑賞者とファシリテーターとが対話的な姿勢・位置関係にならないので、今年度はアシスタントがICレコーダーを持って発言者の近くへ行き録音するという方法を採用した。

2-4 アンケート

各巻について、各々全10回分の全図版30枚を、『MITE! ティーチャーズキット』冊子からスキャニングし、各回3枚の図版をa、b、cとし（例えばLesson1の3作品を各々1a、1b、1cとし）、A3判用紙に全図版30枚をモノクロで印刷したプリントを受講生に配付し回答をさせた。回答総数は、第1巻35名、第2巻37名。

設問は昨年度までと同じで、考察の主な材料となるのは以下の設問への回答とトークの

展開・内容である。

- 1 (1)。「比較的考えやすかった（意見を出しやすかった）作品」を、いくつでも構わないので挙げて下さい。
- 1 (2)。「それらの中で「一番考えやすかった（意見を出しやすかった）作品」はどれですか、一つ挙げて下さい。
- 2 (1)。「比較的考えにくかった（考える糸口がわからなくて困った）作品」を、いくつでも構わないので挙げて下さい。
- 2 (2)。「それらの中で「一番考えにくかった（考える糸口がわからなくて困った）作品」を一つ挙げて下さい。
3. 受講生みんなとのトーク（聞くことを含む）によってあなた自身の思考が最も深まった作品、即ち「最初に見た時の自分の思考」と「みんなとのトークによって展開した自分の思考」とのギャップが最も大きかった作品はどれですか？一つ答えてください。

3. 結果

積み上げ実践における対話記録の概要とアンケートの集計結果を資料として後掲する。今回は、第2巻を単発実践した場合と積み上げ実践した場合との比較が主眼であることと、紙幅の都合上、第2巻分のみ掲げる。

対話記録【資料1】は、これまでと同じく、紙幅の都合により、発言の逐語的再現ではなく、キーワードや要点を残しながら要旨としてまとめた。実際には、受講者はもっと豊かでニュアンスに富んだ発言をしているし、ファシリテーター（進行役）吉田も、対話型鑑賞進行の基本である受容・肯定・賞賛・復唱・言い換え・結び付け・焦点化・鼓舞・まとめ等を行い、発展的なトークや解説を語っている。受講者の発言は全て取り上げているが、ファシリテーターの発言は紙幅の都合上、その多くをカットしている。

今回のアンケート集計結果を【資料2】として後掲する。また、比較のために論考【2】における単発実践のアンケート集計結果を【資料3】として後掲する²⁾。表をわかりやすくするために、「0」のセルは空白とした。

論考【2】単発実践の受講者数が（時間割変更の連絡が不徹底だったことにより）14名と少なかったため、今回の実践との比較が困難な点もあるが、受講者数を勘案しながらデータを読み込んでいくことによって、以下に述べるように一定程度の傾向を読み取れる結果となった。

4. 考察

4-1 鑑賞者にとって考えやすい作品・考えにくい作品

以下の論述において、たとえば「L. 1 ウォーホル」と記せば、キットに掲載されているLesson 1 のウォーホルの作品を指す。

4-1-1 共通する傾向

論考【2】単発実践と今回の積み上げ実践のアンケート結果を比較してみると、作品が「考えやすい」か「考えにくい」という観点では、共通する傾向が見られる。

(1) 意見の分散、あるいはほとんどの作品の傾向

設問1 (1) と設問2 (1) いずれにおいても、ほとんどの作品にポイントが入る。つまり、ほとんどの作品が、ある人にとっては「考えやすい作品」であり、別のある人に

としては「考えにくい作品」である。この傾向は、本研究のこれまでの結果にもあるとおり、このキット全巻に共通する傾向である。

（２）比較的考えやすい作品、比較的考えにくい作品、または意見が拮抗する作品

本研究の初期から述べてきたとおり、設問１においてポイントが高く、設問２においてポイントの低い作品は「比較的考えやすい作品」であると言える。この観点から今回の結果と論考【２】の結果を比較し総合的に判断すると、「比較的考えやすい作品」としては、L. ２国吉康雄、L. ２斎藤真一、L. ５ロバート・キャパ、L. ７カラヴァッジョが挙げられる。次点的な存在としては、今回の実践において設問２（２）で各々４ポイントが入ったものの、設問１では支持の多いL. ４奥谷博、L. ７フリオ・カステリヤノスもその傾向が比較的強いと言える。これらの作品に共通する特徴は、何が描かれているか（映っているか）が明快でナラティブな（物語性がある）作品であることである。

逆に、両実践ともに、設問２のポイントが高く、設問１のポイントが低い作品は、「比較的考えにくい作品」であると言える。この傾向が顕著なのはL. ６ナン・ゴールディンである。この作品は、涙を浮かべながら微笑んでいる男女の姿が写された写真作品であり、その曖昧性・多義性から様々なストーリーが描けそうであるが、両実践で共通して「プロポーズのあとの嬉し涙」という解釈は出されたが、キット冊子にある「別れたばかりの二人」³⁾という解釈は出なかった。曖昧性・多義性が負に作用して、不明快さ、難解さと受けとめられた可能性がある。

両実践ともに設問１と設問２の双方に一定程度以上のポイントが入り、いわば「考えやすい」と「考えにくい」が拮抗している作品がある。L. １トニー・アウスラー、L. ６《夫婦を乗せた陶棺》、L. ９ボルタンスキーである。いずれの作品も、両実践のトークを見ると、意見はスムーズに出て意義あるトークが成立しているように見えたのだが、設問２にもポイントが入ってしまった。この原因として考えられることの 하나가、これらが立体作品あるいはインスタレーションであるということである。

論考【３】において筆者は、対話的ギャラリートーク型鑑賞の教材に向かない作品の条件、あるいは問題のある見せ方として以下の６つを挙げた。

- ①細部が見えにくい作品
- ②立体作品・インスタレーション
- ③映像作品
- ④性的な内容を含む作品
- ⑤部分を見せること
- ⑥連作の一部を見せること

アメリカは、同キット冊子中「作品について」において次のように述べている⁴⁾。

子どもたちはどんな作品でも話をしますが、やはり子どもの鑑賞に向いた作品とそうではない作品があります。

（中略）

本書で取りあげた作品は、平面に映写されることを考慮して、視覚的に強くはたらきかけるものを選んでいきます。したがって、四方から見る彫刻や立体作品、抽象作品、インスタレーション

は省き、物質としての存在感やスケール感に依存した作品も避けましょう。こうした作品は美術館で現物を見るほうがよいので、その機会を待ちましょう。

この原則に自ら背くかのように、このキットには立体作品やインスタレーションが選定されているのである。

筆者とアメリカのこれらの観点に照らし合わせると、上記の拮抗している作品は3点とも立体作品であり、うち2点がインスタレーションである。

細部が見えにくい作品としては、第2巻掲載作品の中では、L. 5マーク・タンジーとL. 10ミュシャが挙げられる。

L. 5マーク・タンジーは、両実践とも設問2でポイントが少し入るものの、設問1(1)で一定の支持がある。理由としては、2回の実践で共通して出された意見、即ち「シャーロックホームズの一場面を思い出させる」という指摘が多く受講者の共感を呼んだためだと考えられる。

L. 10ミュシャは、画面下の人物が何をしているのかスクリーンから遠い席の受講生にはわかりづらいため、ファシリテーターが前列の受講生を促して、ハーブのような楽器を弾いていることを全員で確認するという場面が、両実践に見られた。単発実践の際にはトークが盛り上がらなかったが、今回の実践では、画面上の二人の人物の関係や、香のようなものの麻薬的な効果などについて意見が交わされた。その結果、今回は設問1(1)で7ポイントを獲得したのだが、同時に設問2(1)で5ポイント、設問2(2)で1ポイントが入ったので、今回は拮抗した形となった。

4-1-2 大きな差異

先述したとおり、このキットが単発実践と積み上げ実践のどちらを想定して作られたものかはわかりづらいが、積み上げ実践が想定されているとするなら、単発実践では「考えにくい作品」であったものが積み上げ実践をすれば「考えやすい作品」になることが予想できる。

単発では評価が低かった作品の中で、積み上げで明らかに評価が上がった作品があるだろうか。即ち、設問1のポイントが上がり、設問2のポイントが下がった作品である。この傾向が顕著なのはL. 10パイク&モーマンである。回答総数との割合を考慮しても、設問1(1)、同(2)ともにポイントが上がり、設問2(1)、同(2)ともにポイントが下がっている。設問2(1)はいずれも4ポイントだが、母数との割合を考えればこの設問でこの作品を選択した率は減少している。この理由を考えてみる。単発実践と積み上げ実践のトークを比較すると、共通点として挙げられる発言は、以下の3点である。

- なぜこのようなことをしているのかという疑問。
- 女性が男性を楽器に見立てて弾いている。
- 女性の右手がぶれているので、手を動かしているところを撮影した。

異なるのは、楽器について、単発実践の際にはファシリテーター側から「チェロかコントラバス」と言っているののに対して、積み上げ実践の方では受講者から「コントラバス」という意見が出て、さらに「チェロだ」という指摘がなされた点である。

この作品のトークの充実感を高めた要因としては、上記の他に、ファシリテーターが半ば指名的に発言を促した受講生が「3つの作品の共通点を考えている」という疑問・迷い

を表明し、最後に別の受講生がその疑問を受けるかのように、この作品の「セクシュアリティ」を指摘し、前の2作品の「エクスタシー」「理性に対する欲望」と関連付けてまとめた発言をしたことだと考えられる。

同様の傾向で、設問2(1)のポイントが4から3に下がって設問1(1)のポイントが3から7に上がっている作品がL. 5横尾忠則である。トークの展開と中身を見ると、今回の方が、絵の意味やストーリーを追求した展開となっていることがわかる。トークによる意味生成が参加者の達成感をもたらす好例である。

逆に、単発実践の際には比較的考えやすい作品だと評価された作品が、今回の実践においてその評価が下がっている作品としては、L. 3ロートレックが挙げられる。トーク記録を見ると、単発実践の方では人物や場所に関する多様な意見が出されたのに対して、積み上げ実践の方では意見が活発には出ず、途中で2度もトークが止まっている。その原因としてファシリテーターが思い当たるところは無い。対話型鑑賞の経験が豊富で、積み上げ式に鑑賞学習を重ねても、このような結果に終わる場合があるということがわかった。

4-2 互いに矛盾する条件の検討

先述したとおり、このキットは対象の条件として、①「年齢を問わず1巻から始めること」と②「第1巻が小学校3・4年生対象、第2巻が小学校5・6年生対象、第3巻が中学生対象」という互いに矛盾する条件を掲げている。

もしも条件①が正しいとすれば、「年齢を問わず」とあるので、対象が大学生の場合でも第1巻から始めるべきである、ということになる。また、前段階のキットを体験していない対象者に第2巻や第3巻を用いて実践をすれば、なんらかの支障をきたすことになる。即ち、筆者の論考【2】における単発実践に無理があったことになる。

今回は条件①に即して積み上げ式に実践したのであるから、前回の単発実践と今回の積み上げ実践を比較すれば、対象が異なり1回の実験(実践)とはいえ、何らかの形で実践結果に差異が生じ、条件の適否が窺えることになる。

逆にももしも条件②が正しいとすれば、論考【2】のごとく単発実践に用いることに問題が無かったことになる⁵⁾。

まず、アンケート結果からは、単発実践において受講生が「考えにくい」と感じた作品が、積み上げ実践において「考えやすい」と感じられるようになれば、その作品は本来積み上げ式に体験されるべきものであって、先に第1巻を体験していれば「考えにくい」作品ではなく「考えやすい」作品だと受けとめられるものだということになり、単発実践に無理があったということになる。これまでに考察してきたように、アンケート結果からは、若干の例外はあるものの、作品が考えやすいものだったかどうかという観点での受講生の評価は、単発実践と積み上げ実践において顕著な差は見られなかった。

検討する上でのもう一つの材料であるトークの展開・内容については、トーク記録をつぶさに比較検討することも有効かもしれないが、現時点では、主観的ではあるがファシリテーター役を務めた筆者自身の実感が有効であると考え、ここに記すことにする。

もしも単発実践に無理があり、積み上げ実践の方が好条件で本来的であるとするなら、積み上げ実践をファシリテートしている最中に、単発実践との違いを筆者が感じたはずである。トークにおける受講者個々の発言内容、着眼点、観点、語彙や表現の豊かさとの確

さ、他者との関わり、思考の深さ、などについての違いをである。しかし、実践の最中にも、そしてあとから振り返ってみても、「単発実践の時とは違うな」と感じた場面は一度も無かったのである。トークの内容や展開について、質においても程度においても単発実践と積み上げ実践で違いは感じられなかった。

以上のことから、第2巻は、大学生（一般の大人）を対象とする場合、単発実践で用いても第1巻から積み上げ実践で用いても、トークの内容や質や展開に差は見られなかった。したがって、条件①「年齢を問わず1巻から始めること」は必ずしも金科玉条的に守られるべき条件ではない。少なくとも第2巻を大学生を対象として単発実践に用いることに問題はなし、積み上げ式に実践をしても単発実践以上の結果を期待できない。

5. 結語

今回の実践と考察によって、本キットに掲載されている作品の対話的ギャラリートーク鑑賞の教材としての適性が従来以上に明らかになり、対象者の条件について一定の結論を出すことができた。しかし、上述の通り、これらはいくまでも大学生を対象とした実践から得られた知見である。今回の結果を敷衍して「第2巻を小学校高学年あるいは中学生を対象として単発実践しても問題は無い」と判断することは性急である。一方で、今後の実践・研究により、もしも条件①が崩れてしまえば、条件②が適切であることになり、示された対象年齢以上を対象とした単発実践での使用について問題がなくなる。

本キットは、アメリカの豊富な経験を元に作品が選定され編集されているものであり、実際に日本の子どもたちを対象として実践し検証されたものではない。したがって、このキットに関するさらなる実践・研究、情報交換が俟たれる。美術教育関係者の、対話型鑑賞に関する「対話」がこれまで以上に求められるのである。

註

- 1) アメリカ・アレナス：MITE!ティーチャーズキット1，同2，同3，淡交社，2005.
- 2) 論考【2】p. 364に掲げた単発実践第2巻のアンケート集計結果の表に不備があった。設問3の列が欠落していた。ここにその点を補った完全な資料を掲げることによって訂正とする。
- 3) アメリカ・アレナス：MITE!ティーチャーズキット2，淡交社，p. 35，2005.
- 4) 同，pp. 55，56
- 5) むしろ「中学生を対象とした教材を、大学生を対象として実践したことによって、別の問題は生じなかったのか」という新たな疑問が生まれてしまう。つまり、「大学生にとって幼稚で物足りないという結果にはならなかったのか」という疑問である。しかし筆者は、これまでの経験上、本キットが大学生を対象とした場合に幼稚すぎるとか物足りないといった感触は持っていないし、受講者からそのような意見・感想が表明されたことも、そのような態度が示されたこともない。

【資料1】

MITE2 (積み上げ) トーク概要

S：学生、T：授業者・ファシリテーター (吉田)

1 作品ごとに示された時間は、各レッスンにおける累計の所要時間である。たとえば、2枚目の後に示された時間は、1枚目と2枚目の所要時間の合計である。

[1] 2010.6.2.

(Vol.2, Lesson 1)

1. アンディ・ウォーホル《マリリン》1967年

- S：マリリン・モンローだと思いました。
T：誰も知っているマリリン・モンローの写真を使っている。(他にもマリリン・モンローだと気づいた学生あり)
S：マリリン・モンローの顔をこれまでまじまじと見たことがなかったんですけど、ほつべたのところに赤くマシマシな色があるって、初めて知りました。
T：髪の色などはリアルに見るけど、髪の色と毛の生え際とか境界線が妙にくっきりしていて、ちょっと違和感がある。
S：まぶたの上のアシャードのグリーンと背景の色が同じになって、マリリン・モンローが際立って目立って、全体的に人の目を引き付けるような絵になっている。
T：この作品の作者を知っている人いますか？知らない、アンディ・ウォーホルって聞いたことないですか？(アンディ・ウォーホルとシルク・スクリーンについての説明) (6分30秒)

2. フランチェスコ・クレメンテ《夜中太陽1》1982年

- S：口の中の、歯だと思ったんですけど、よく見ると人の顔の顔に見えて、骸骨みたいな、口の中にいっぱい含んでいるようなイメージがして、眼も、瞳がぼやけて、昔話や神話に出てくる怪物、悪魔みたいなイメージがありました。
S：歯も顔に見えんですけど、鼻のあたりもちょっと醜態に見えるなと。色も、人の顔の色じゃなくて、怖い感じがする。
S：最初に、すごく気持ち悪いなと思って、作者が一体何を描きたかったのかなあとすごく感じました。
S：最初見たとき、すごく絵が下手だなと思った。「絵ととても上手い小学1年生」の絵だなと。
S：最初、気持ち悪いなと思ったけど、よく見ると色も結構使ってるし、そういう点ではすごいなと。
T：暗い背景の中に顔の輪郭が黄色で描かれているので、顔が浮かび上がっている感じがしました。
S：顔だけすごく目立つ感じになっていて、目から上の頭と首から下の体はどのような感じになっているんだろう？
T：(美術史的にニューベントニングの説明。3分) (15分20秒)

3. トニー・アウサー《ピンク》2003年

- T：これは絵ではなくインスタレーションです。美術館の空間にこんなものが置いてある。
S：この画像が出てきた時がすごく気持ち悪くて、リアルな作品で、なんで眼が上と下を向いているのかと思いました。
S：自分も気持ち悪いなと思った。人の顔の部分らしきものでカエルの形を作っているのが気持ち悪いなと。
S：私もカエルっぽいなと思ったんですけど、カエルは赤だし、下の口の方に行くにしたがって赤が濃くなって、唇の色がどす黒かったりするんで、そこが気持ち悪い。
S：全体として赤いので、熱があるのかなと思いました。
S：絵の配置がコンピュータで作った感じがするけど、結構新しいものじゃないかなと思いました。
T：新しいものです。2000年代。ここで、これがどうやって作られたかを説明すると。あんな形の立体物、クッションなんぞですけど、そこへプロジェクターを映して口を映して。本物は持っているんじゃないかなと思うんですけど。本物を見たいですね。金沢21世紀美術館の所蔵です。今日の3枚の共通点？人の顔がひとつとーん。(20分20秒)

(Vol.2, Lesson 2)

1. 高島達四郎《少年》1928年

- S：ニット帽みたいなのを被って、マフラーもして、ニットのセーターみたいなのを着ているのに、下が半ズボン。なんで上がそんなに厚着なのに、下が薄っぺらい言うか薄着なのかなと思いました。
S：ニット帽とマフラーが同じように見えたので、つながっているんじゃないかと。
T：人の顔が不自然な感じがします。耳も大きい。顔の左と右がアンバランス。右上は作者のサインですね。
T：1928年？かな？Taka・・・ですね。(笑)
S：あ、背景の色も白と暗いと思います。
S：最初見た時に、男の子と女の人が、一瞬、立っているのかと思ったんですけど、椅子の部分を見たら垂んでいるような気がして、不自然すぎるなと思いました。
S：顔と口全体を見ても、あまり人間がなくて、機械的な感じがする。動きがまったく無い。
S：たぶら顔の中だと見ると、なんでマフラーと帽を着ているのかなと。
S：はじめて見た時に、ひげの無いノーマルみたいなと。結構、小みみたいな感じが、特に顔の小さいことからして、人というよりも、セーターとかマフラーとかを強調したく描いたのかなと思ったんですけど、でも逆に顔の小さいことでマフラーよりも顔の方が浮かび上がっている感じがして、マフラーが、かかっているというよりも浮かんでいる感じが、特に右肩の方を見たらそんな感じがして、不思議な作品だなと。
T：まとめ (28分50秒)

2. 国吉康雄《カーテンを引く子供》1923年頃

- S：ちっちゃい子とみたくないんですけど、表情が大人びているなと。
S：頭身もちょっと低いなと思ったのと、顔が大人びていてちょっと違和感を感じて気持ち悪いなと感じたんですけど、光の入れ方というか、背景の使い方がか明暗の付け方とか暖かい感じが出ていて、それを考えるとすごく印象が変わって、かわいくなって思いました。
S：絵の全体は柔らかくて絵本みたいな感じがしてかわいいなと思ったんですけど、やっぱり人物が引き抜くと、首も無いから不自然な感じがする。
S：手前が顔になっている花の色が暖かいな感じがします。顔も広すぎて暖かい感じがします。前の絵で、大人の感じのを一気に無理やり子どもにしてみたという意見が出たんですけど、この絵にもそれが感じられる。暖かい感じが暖かい感じが暖かいとおっしゃいましたが、自分は意図的に付けて星っぽくしたんじゃないかなという気がします。夜の風景で、カーテンを開いているように見えて、3人身体という変な人間なんですけど、たぶん、おばちゃん、お母さん、目線の前には子どもがいて「さあ、そろそろ寝ますよ」的な感じで、怖い、かつ温かい感じがすると思います。
S：今、夜というのを聞いて、人の顔が丸いのも、月とか太陽とか、どちらかという月だと思ってしまうけど、それにも似ているかなと。眼の配置がアンバランスだと言っているんで

- すけど、左目だけが一回りちょっと大きくて位置もずれて、あれがアンバランス感を強調しているのかな。4月21日にやった「仔羊は行きたくない」という絵と、全体の雰囲気、落ち着いた色調も似ているなと思いました。カーテンを開けるとともに、その光が、今ほやかと暖かい光が差し込んでる感じなんですけど、カーテンを開めることでまたその光がほとんど無くなって行ってんじゃないかと、花を見て思いました。
T：鋭いですね。その通りです。作者は同じ国吉康雄というアメリカで活躍した画家。
S：さっき眼が見開いているという意見が出たんですけど、眼を見開くと黒目の上の方まで白目が出るので、眼は別に見開いていないと思って、怖いのは、眼が死んでいるからだと考えた。光が入ってなくて、真っ黒になっているので、それで怖いのかなと。(41分05秒)

3. 斎藤真一《さすらいの美術師》1979年

- S：男の人の顔が死にそうなくて、旅をしながら、食べるものも無く、歩いてきたのかな。
S：男の人が死んでいるような顔をして、全然死んでいそうじゃないなと。背景とか、全体的な色調が青くて冷たい感じがするんで、男の人の気分とリンクしているのかな。
T：どんな気分だと思いますか？
S：死にたいなあ、と思っている。
S：前の人の意見で「旅をしながら」とあったんですけど、手にバイオリンを持っているので、そのバイオリンはとでも大切なものなのかなと。
S：バイオリンを持っているにしろ、それを弾くための弓を持っていないので、落とす無くして気分が落ち込んでいる。
T：前列の人でも弓が見えないんですけど、ここに構みたいのが見えるでしょ？よく見ると、もう少し手と手とかが極端に細くて、次の瞬間、男の人だけ消えて、あとは腹だけ残るな、みたいなその後のイメージが、とでも、男の人がもう生きていないという、実はすでに死んでいるんじゃないかみたいなイメージを持ちました。
S：疑問。もし良かったら答えてほしいんですけど、男の人の頭に2本線が左右出てるんですけど、あれは何なんですか？
T：帽子のつばじゃないかな？ちょっと不自然ですが、全体がデフォルメしてありますから。
S：旅をしながら話が出ているんですけど、なんでこの男の人は旅に必要な日用雑貨とかを持たなくて、傘を持ってたの？
T：今日、このイラストは出なかったんですけど、形式上の特徴としては縦紙。(52分40秒)

[2] 2010.6.9.

(Vol.2, Lesson 3)

1. アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック《ムラン・ド・ラ・ガレットにて》1891年頃

- S：周りの他人は黒っぽい服や青っぽい服を着てちょっと冷たい感じで、その人の人だけ赤い服を着てとても目立っていて、あの人を描きたかったということがよくわかる。
S：線が二重になったり一本だったりで、きっちり描いた絵と言うよりはラフ画みたいな感じがする。
T：これ、画材は何だと思いますか？
S：カーン・・・クレヨンと画用紙・・・かな・・・。
T：そうですね。あるいはバスケットかもしれないけど、絵の具も使ってるかもしれない。水彩画、油彩画。いくつかの画材が併用してあるかもしれない。(筆手無し)
T：群像ですが、場所はどこでしょうか？どんな場所でしょうか？何をしているのかな？ (25分筆手無し)
S：手前にベンチが見えるのと、人がたくさんいるので、駅とかプラットフォームみたいなところかなと思いました。
S：僕は、その茶色いのが、ベンチじゃないかと、階段とかタラップみたいな感じの印象があって、家から出てきて雑踏があるみたいな感じが、最初の方の線のところを見ていて、薄っぺらいなと思ったんですけど、船のタラップから降りてきたところかなと思いました。
S：背景は緑なので、森の中ではないかと。狩の前の場面とか、手前に黄色のフェンスみたいなものがあります。(6分00秒)

2. 《宴会の場面》ナクトの墓、テーベ、紀元前15世紀頃

- S：古代エジプト的な雰囲気があるんですけど、印象はいいな。
T：言葉にしてみたら、どんな特徴からそう感じるんだろうか？
S：服装。
T：古代エジプトの壁画ですね。
S：エジプトの壁画を見ていつも思うんですけど、なんでエジプトの古代の人たちは、横顔で、体だけ正面で、また目が横、ってポーズを描くのかな。
T：どうしてそういうように描くのか、社会学や美術の先生から聞いたことある人いますか？(筆手無し) どうしてと思う？
S：横顔が好きだったか(笑)・・・描きやすい？
T：みならぬ自画像を描くときに鼻で苦労したんでしょう。顔を描くときは横顔が描きやすい、でも今度は目が描きにくい。だから目は正面向きで、体は正面がわかやすい。この場合、お行儀をしているのを正面から描くのは難しい。今の我々のように、写真みたいに、写実的に、見たとおりに描くという意識は無いわけですね。
S：女性3人の頭の上に出ている突起みたいなのは何かなと思いました。
T：何だろう？
S：何度もこんな感じの絵を見たことがあるんですけど、先程の絵を見たあとで印象的思ったのが、顔がはっきりと表れているという描き方に、さっきの絵と比べると、より鮮明にそう思える。髪の毛の描き方が繊細に描かれているのと改めて気が付きました。
S：髪は多少写実的に描こうとしているんじゃないかと。右の女性と左の女性では髪型が違うもね。
S：女の人は髪がプレステルとかが胸元の飾りだとか、身に付ける装飾品が多いから、一般の女性じゃなくて、ちょっと身分の高い人だったのかなと。
S：古代エジプトの絵だとわかるんですけど、服装の他に目が横にきゅっと鋭くしているのが、僕にとってはエジプトの絵画のイメージで特徴です。目の向きがバラバラでおかしいというのとは違って、一番左端に人がいますよね。その人がすごく細くて、しかも右側にいる3人の女の人の人と比べると、体の大きさも全然違ってる不自然。ガリガリに痩せているので、一枚の絵を部分的に切った感じに見えるんですけど、一番左の人の左に人がいて手が出ているんですけど、その人が何をしているのかなと。(17分36秒)

3. フェルナンド・レジェ《サーカス》より、1950年

- S：楽器を演奏していたり、踊ったりしているように見えるので、すごく陽気な感じがして、パレードの一場面のような感じがするんですけど、背景は青や茶色だし、目も白目みたいな感じで少し不気味な感じがしました。(40分待っても筆手無し)
T：まとめ (20分49秒)

(Vol.2, Lesson 4)

1. フォン・ゴッホ《ヴァン・ゴッホ《ヴァン・ゴッホ》1888年

- S：川の色が青いんですけど、周りの色が結構あったかいい色を使っていて、全体的にあったかい感じがして、好きなんです。
S：一つ一つ筆を置いて描いたような作品だなと思ったんですけど、特に左側の歩く道みたいな

なところ、川の水のとこが、そういう風に置いてるなと感じました。

S：はじり、なんなく空なかの朝の光かと思っただけで、洗濯とか川でいるのかなと思ってる朝の風景かなと思えました。

S：左上に、煙の出ている煙突のようなものが2本あるので、あそこには工場か何かがあるのかなと思えました。

S：工場のあたりが、震みと白いのがあるんですけど、他の色と比べて紗に煙ほいていうかが、いろいろな異質な感じですが、川も、工場の方向から流れてきている感じがあって、洗濯をしている人たち丈夫々なのかなと、道の色と川の岸の色がほとんど同じことから、昔からの田舎の人たちの洗濯場なんだなということがよくわかる。橋の上に立って、その洗濯している様子を見ている女の人が、ちょっと気になる、あの人はいったい何をしているのかな。

T：この絵、作者はたぶんあのひ、ひょっとしてあのひ。誰か気がついた人いませんか？

S：ゴッホ！

T：みなさんが言ってくれた色やタッチの特徴は、見事にゴッホの絵の特徴。(28分30秒)

2. 鎌木清方《墨田舟遊記》1914年

S：すぐ日本っぽいので、屋根船とか描かれているので、日本の画家が描いたんだと思います。また線が入っているので、屏風とかかなと思えます。

T：そうですね。

S：手前と奥の方向があるので、1隻だけじゃなくて何艘も浮いているのかなと思えました。

S：背景と、中心の船が同じ色なので、人物が際立って見えるなと思えました。(20分00秒)

S：白い船が、船橋さんと二人に比べて、著物のせいもあるんですけど色が白く見えて、いかにもちょっとお洒落そうな印象があって、手前の船先で見えている船に「や」って書いてあるから、何かお洒落というかが、船橋さん何かの薬などを売っているのかなと思ってる、他の二人も食事している感じがしている、その女の人だけちょっと気持ち悪くなってる薬何か買いたくもうしているのかなと。一番描きたかったのは、その娘さんの方だったのかな。(33分55秒)

3. 奥谷博《森く黒い生》1992年

S：前の2枚から見ても、今回のテーマはたぶん「川と人」だと思んですけど、前の2枚と違って、今度は女性を離し出して、ちょっと気持ち悪い絵だな。

S：人が前に行ったんですけど、人の色がすごく紫色いので、すぐ目に入るな。

S：前の人の服装がアフリカかそれにちよ系の人の服装に見えました。これから狩に行く前に女の人が下見をしているのかなと思えました。

S：さっきの女が言ったように、紫色がいかにもすごくきれいな絵だなと思えました。手前の人たちの髪色の良さとか、後ろが、ちょっとタッチも違うし、塗り方も、色が若干鈍いので、実際の水牛を見るというよりは、そういう牛が描かれているのを見ていうように思いました。

S：狩という意見があったんですけど、自分は、今からこの人たちが水牛を自分の周りに集めて荷物とか運ぶんじゃないかと思えました。

S：水牛を普通の牛だと思っただけで、一番右の女の人が着ている衣装がサリリーに見えて、水の中を歩いているんですけど、その水泳服かなと思えて、その川がガンジス川かなと思っただけで、川の透明度がすごく深くて、夕日を反射しているように思えて、不気味という意見も出たんですけど、きれいな絵という意見は賛同しやすけ。

S：私も、インドでガンジス川かなと思っただけで、インドに水牛が、ヌーかなと思っただけで、それがガンジス川かなと思っただけで泳いでいるのかなというのが疑問な。

S：川が、右だけ見たら夕日というふうな感じんですけど、左に行くにつれてどんどん血みたいになって、牛も血に汚れているような感じがするので、疫病みたいな感じのイメージがありました。あれほど牛が泳いでいる人が赤く染まっていたりするの、見てる人たちはそれほど驚いている風でもないし、無動でなめている感じがしました。真ん中であんな色をしている牛の周りだけ水が清潔な感じがして、周りの波紋が、その清潔な色が広がっているようなイメージ。

S：さっき、女の人の人が、実際の川を見ているのか、絵を見ているのかという話がありました。でもアフリカやインドだったら、立っているところの砂と地面のはずなんですけど、ちゃんと土の床のうらに見えんかな。それから二番目の女に着たのは母乳母のようなものを持っているように見えます。だから、ある程度もうちょっと文明が上なのかな。床は、コンクリートで舗装されているか、床がもって壁が掛かっているのか。でも、一番左に立っている白い服を着た人は、本当に川の川を覗き込んでいるように見えます。川の色の話なんですけど、もし夕日だったら、壁に絵がかかっているだけじゃないんですけど、本当に川を覗き込んでるんだったら、女の人們が立っている床という地面というコンクリートという、そこは赤く照らされるはずですけど、影も長く出るのは存在んですけど、影がまったく見えんかな。だから、地盤のどこかに赤い水というものは存在するんですけど、たぶん服から見てもアフリカやインドのざらかなんですけど、たぶんその地方には黒いような気があるので、血にどかないかと思えます。水牛は、死んだ感はあるんですけど、疫病で、感染するから、それを食い止めるための処分で、川の中に投じ込んで殺しているかな。色も、赤と緑という、色相的には対照にあるような色を使っているので、ちょっと気持ち悪い感じもします。

T：今、ちょうど右端でコンクリートで牛・豚が殺されていますね。足元はコンクリートっぽいんですけど、右から2番目の人は、水泳の履き込みみたいなところに足をかけていますね。でも裸足ですよね。口蹄疫の殺処分現場は大変なだってね。奥谷博。(50分30秒)

【3】2010.6.16.
(Vol.2, Lesson 5)

1. マーク・タンジー《ド・マンを問いただすレリダ》1990年

S：この絵を、絵か写真かちょっとわからないんですけど、パッと見た時に、『シャロークホームズの最後の事件』のホームズとモリアーティ教授が滝に落ちるところをイメージしました。

T：シャロークホームズ。2年前にこの作品を見た時に、その時は女子学生でしたけど、まったく同じことを指摘してくれました。誰んだかよその人は？5人、6人。

S：ある映画のシーンだと思っていました。背景もちょっとファンタジー、神秘的な感じでした。さっきのシャロークホームズとモリアーティ教授の話を聞いたら、とても近い印象を受けました。霧があって、その二人は落ちてうろたえて、ちょっと不安定な感じがありました。(20分00秒)

T：細部が見えにくいからねえ……。あえて解説はせずに次に行きましょう。(4分53秒)

2. ロバート・キャバ《雨れ落ちる兵士》1936年

T：これは、見たことがある人がいるかもしれない。この写真見ることがある、知ってらっしゃる人が発言を控えておいて、途中から発言して下さい。さあ、どうぞ。(1分間挙手無し)

S：(K)：これたぶん写真だと思うんですけど、この場面には、写真を撮っているカメラマンの男の人が一人いて、おそろく戦争か争いの中で男の人が狙撃された瞬間をカメラマンの男が撮っているかなと思えました。

S：(O)：私は撃たれたようには思いません。狙撃されたにしろ、血がブシュと出てないし、跳ね返りもないし、後ろに貫通したようでもないし、銃が投げられようとしているところかなと思えました。

T：Kくんは、どこに弾が当たったんだと思った？

S：(K)：頭。

T：どうして？

S：(K)：頭の上に血みだりなが見える。

S：(O)：私は帽子だと思った。撃たれたなら、喉のところだと思っただけです。ちょうど黒い影が見えるので、微妙に尾を引いているから。頭蓋骨まで入った、脳髄がブシュと出ると思うので。

S：見ええない部分が見えたいという可能性もあるわけですね。撃たれて左肩が下がってこうなっているというも言えると思います。

S：こけておったんではない。撃たれてるとかじゃなくて、足元が斜めになっているから、

画面左から小走りに来た時に、足元を踏み外してこけた瞬間なのかなと思えました。

S：後方から来て撮ったからこんな風になったのかもかもしれないけど、もしかして、迫力を出すために右側、名を打っているんではないかな。手ではいらないかなと思えました。

T：右側の影が切れているように見えるなと思えました。

S：この写真を撮った人の名前を知っている人、いる？

S：ロバート・キャバ。

T：よく知ってますね。従軍写真家。テキストにも出ています。で、結局、キャバは戦場で命を落としたんだよね。(15分8秒)

3. 横尾忠則《赤い襲撃》1986年

T：男の人たちが結構狭い顔を写していると思うけど、全然笑顔ではない。男が神秘的な存在にいか、たさへ不死鳥とか、人にはどうもできない存在ののかなと。テレビなどで、宇宙人未発見みたいな感じで、こういうタッチの絵を見たことがあって、その絵にすくく似てるとも思っただけで、作者とか全然わからないんで。この絵のことについてもっと知りたいなと思っただけ。

S：男が、鳥の鳥とかとても幻想的なんですけど、襲われている男の人たちがスーツを着ているので現実的だと思ってる。そのギャップがおもしろいと思っただけ。

S：背景の色使いがマンガの次のうめがのよみに見えるので、この絵に描いてある鳥が、未来から現在の地球人を襲いに来たのではないかなと思っただけ。

S：周りの空気、大気がその鳥のよみに集結している感じで、特に右の緑のスーツの男の人のタッチが吸い寄せられているような感じがする。かなり強い気流が鳥に向かって上昇しているな。真ん中のスーツの人は、鳥のうめがに手を差し伸べているところから、どうしても鳥の一部、名を打つていられないかなと思っただけで、木の上にいるように見えないで、鳥の近くに行くと鳥を捕まえるようにしているのか、殺そうとしているのかわからないで、その鳥も、また鳥の一部を手に入れたらという気が強まる。男が3人いるのと、鳥が3羽いるのは、何か意味があるのかな。

T：(横尾忠則)について。ペインタリ。ニューペインティング。3枚の共通点)(25分15秒)

(Vol.2, Lesson 6)

1. 《夫婦を載せた陶箱》紀元前530-510年頃

T：これは、みなさんが美術館や博物館に行ったら、こんなものが置いてあったとします。こういう立体物があるって、その時にね。

S：この二人は夫婦か何かで、寝る前になんてテレビでも観ようかみたいな感じで、仲のいい夫婦のなかなと思っただけ。

T：時代はテレビと合っているかどうか、そこは多少おちやうとしておろして語ってそれまで、夫婦と合わせている感じですが、男の人の右手、あの右にはモココンクリートですね。(笑)

S：体のつくりとかが繊細に出来てないし、彫られていないので、すごく昔に作られたものかなと思っただけ。

S：最初に、棺かなと思っただけ。

T：どうして棺かなと思っただけ。

S：色がエジプトのミイラが入っている棺に似ていると思ったので。

T：これはその通り、棺なんですよ。

S：自分も、下にある木が棺かなと思っただけで、途中からだんだんベッドに見えてきて、仲のいい夫婦で、時代的に、彼が寝たんですけどもモンゴルっぽい感じはがらんで、棺だとも言われて、・・・そもそも、この二人があんなから寝てるんではないか？そうじゃなかったら、なぜ二人が棺の中に乗ったのか？これは謎なままです。

S：不思議ですよね。一人であの壁へ行くのは怖くないか、ましてや仲のいい夫婦なら、木でできた器かなんかと語ってたんですけど、これは焼きた器らしいです。ルーブル美術館にあるそうです。後ろ側から撮った写真をインターネットで見つけたので、機会があったらお見せしましょう。(31分40秒)

2. ナン・ゴールデン《ニューヨークのティン・パン・アレーで泣くデイヴィッドとブツ》1981年

T：これは写真です。どんな場面なんだ？何が起こったんだろう？

S：背景が真黒なので、どこに何のなかなと思っただけ。

S：左側の男の人の右手の先に何の木みたいなものがあるんですけど、それが何かかなと疑問に思っただけ。

T：棒かもしないし、テーブルか何かの縁かもしないし。

S：さっきの夫婦だったんで、これも夫婦かなと。背景が真暗なので、男の人が手を載せているところか何かかなと思っただけ、バーかそんなところかなと思っただけ。

S：私も最初、男の人がバーに来て、お酒を注文しているところかなかなと思っただけ。でもよく見ると、ブツと光が当たっているから、背景も少しは見えるんじゃないかなと思っただけ。空間って何んだかなと思っただけ。

S：まず服装から見て、そんなに古くない写真だと思うんですけど、写っている二人の表情を見ると、女の人が、少し目が涙んでいるようにも感じんですけど、でも隣で男性はそんな顔した様子も見えていないので、女の人は涙まみれかなと思っただけ。

T：その解釈の人は？僕は、左の男の目のように潤んでいるように見えるんですけど。そのすくすくしたもうストーリーが描かれますよね。それにしても、嬉しいのか、悲しいのか。この二人はどちらのタイプか関係のなかな。夫婦だったんで、夫婦じゃなくても、まだ結婚していない恋人同士かもしれないですね。

S：私は、この二人はまだ結婚していないで、離れて涙を流していると思うんですけど、左の男の人が女の人のアプロボースをして、OKしてもらったところを記念に撮ったのかなと。T：もうひとつストーリーが描かれます。別れ話を切り出して涙が流しているのかもかもしれない。(40分26秒)

3. ユディット・レイステル《若い女に金を差し出す男》1931年

T：これは油絵なんですけど、さあ、何が起きているのでしょうか？

S：男の人が手に何か持っているように見えるので、女の女にそれを渡して口説こうとしているんだけど、女の女がそれを無視しているのかなと思っただけ。

T：男の人が手にコインを持っていますね。

S：男の人が、あの女の女の女の顔の先が何かで、「コインをデッサンしてみましよう」とみたいな感じで差し出して描かせるか、何かの指示をするのかなと思っただけ。

T：私は最初は、コインが見えなかったんで、その女の女の人が何か持っているのを、男の人がお手持いさんか何かで見守っているように思っただけ。

T：女性は何か描いているっていう意見が出たけど、他に、女性は何をしているか？

S：縫い物をしてると思っただけ。

S：私も、針とか思っただけ。

T：縫い物か、何か描いているか。どちらにも見えますね。

S：男の人と女の人は夫婦で、男の人は今日の働きの分のお金はこれくらいだよというのを奥さんに見せている場面だと思っただけ。

T：じゃあ、奥さんはどんな言葉を送っている？あるいはどんなことを思っている？

S：出てこないです。(笑)

T：今後を言ってくれてもいいんですけど、

S：あまり感銘していない感じだと思っただけ。

T：だてて目を見合わせてないもんね。「何よ、それほつちで」という感じですかね。そう言われてみると、そのように見えるでよ？他？(挙手無し)

T：これはユディット・レイステルという珍しく女性の画家の絵なんですけど、作者が必ず解説文を付けて残して残しておくわけじゃないから、後の人が見るといろんな解釈が出る場合があります。これも、ちょうど今出てきたような意見。ある本を読むと、口説いている場面、別の本を読むと、性や売春を思わせるものは描かれていないんだと書いてあるんで、後半のテーマでしたね。(47分57秒)

【4】2010.6.23.
(Vol.2, Lesson 7)

当てるというところに、逆にその子たち、今は亡くなっているけど、実は一人一人が命を持ってたんだよ、そのようにも読み取れますね。テーマは、家族・・・じゃないか。でも、さっき「血のつながり」っていうことと合わせると、もっと大きな意味での集団ということもいれませんか。(53分20秒)

(Vol.2, Lesson 10)

1. アルブレヒト・デュラー『楽園追放』小愛雑伝より、1510年

(1分間挙手無し)

S: 世界史などに出てくる西洋の本の挿絵に絵のタッチなどが似ていて、絵の内容なんですけど、聖書のアダムとイヴの楽園追放の場面かなって思いました。(27秒間挙手無し)

S: アダムとイヴから男女がいて、天使がいて、すぐそばにある赤はりんごの木じゃないかと思ったんですけど、りんごの木の右と左のところに組みたいのがあって、あれは作者のサインなのか、絵の中の別の意味があるのかわかんないなと思いました。

T: これが禁断の果実、知恵の実です。その木に組みたいなものがかかっています。あそこ何で書いてあるかわかりますか？

S: I S I O か T O か・・・

T: その下に？

S: 黒い台っていうか道っていうか・・・

T: 台形のようなものが見えます。ちょうどいいところを指摘してくれたので説明します。私に I S I O かと思ったけど、実は数字なんです。数字だとすると？

S: 1 5 1 0

T: さっき「この作者のサインかな」と、そうなんです。1510年に描きましたよ、作りましたよ、これ版画です。下のあれはAとDが組み合っています。アルブレヒト・デュラーって、聞いたことないですか？ルネサンス期のドイツの画家です。Aが台形みたいになって、鳥居みたいに見えるでしょ？その下にDが入っているんですけど、デュラーの作品にはほとんどこのサインが入っていると思うんですけど、今度気をつけて見ておいて下さい。(39分40秒)

2. アルフォンソ・ミュシャ『まじない』『エスタンプ・モデルヌ』より、1897-99年

(挙手無し)

S (t): 下の男の人みたいなのが、お香とか焚いてお祈りしているところに、神様みたいな人が来るのかなと思いました。

(挙手無し)

T: えくん、右下の男の人が何をしているように見えると言ったっけ？

S (t): お祈りしたいなことを。

T: えくんのところから他に物が見えませんか？ここにこう・・・最前列の人、ここに線が見えるでしょうか？えくん、見えた？

S (t): なんとなく見えました。何か楽器を演奏しているような。

T: ハープの原型みたいな楽器を奏でているように見えます。手の形もそんなポーズですね。そしてお香を焚いています。えくんが言ってくれたように、宗教的な儀式のような場面に見えるんですね。

S: 後ろに建物の影が見えて・・・

T: 建物の影？

S: 丸いドームっぽいのが見えるので、中東の方かと思って。あと、作者がたぶんアルフォンソ・ミュシャだと思います。

T: そうです。ミュシャです。独特な画風です。ここにサインもありますね。

S: 手前の人か、楽器を弾いているのは猫背で何かを恐れているように下を向いているので、後ろに立っている女の人が神々すぎて見ちゃいけないみたいな感じかなって思いました。

S: 描いてある部分が、紙の全体に描いてあるのではなくて、丸い部分に描いてあってドアっぽいから、こちらからドアを通して覗いているような感じですか？

S: さっきからの女の人は神だという意見が出てたんですけど、僕は女王みたいな、君臨してるとか言えないかと思って、楽器を弾いている人は奴隷っていうか仕えている人、顔を見たら即殺される。死罪だみたいな、そんな立場の人じゃないか。香を焚いているようにも見えてるんですけど、香か、もしくは麻薬的なものを焚いて悦ばせて、背景はたぶん女の人が見た覚えているとか、そういうものなんじゃないかと思いました。後ろの向こうに見えるシルエットが、天竺っていうか、天国っていうか、極楽っていうか、そういうのを表しているんじゃないかと思いました。

【資料2】積み上げ Vol.2 アンケート集計結果

回答総数 37

図版	キットとの対応、作者名等	設問1(1)	設問1(2)	設問2(1)	設問2(2)	設問3
1a	Vol.2 L.1 ウォーホル	7	2	7	2	
1b	Vol.2 L.1 クレメンテ	12	1	5	1	
1c	Vol.2 L.1 アウスラー	14	1	7	5	2
2a	Vol.2 L.2 高品達四郎	6		8	2	1
2b	Vol.2 L.2 国吉康雄	13	1	1		2
2c	Vol.2 L.2 斎藤真一	17	4	1		
3a	Vol.2 L.3 ロートレック	1		9	2	
3b	Vol.2 L.3 ナクトの墓	10	2	5	1	
3c	Vol.2 L.3 レジェ	4	1	7	1	
4a	Vol.2 L.4 ゴッホ	9	1	5	1	
4b	Vol.2 L.4 鈴木清方	4		6	2	
4c	Vol.2 L.4 奥谷博	12	3	4		2
5a	Vol.2 L.5 マーク・タンジー	10	1	2	1	
5b	Vol.2 L.5 ロバート・キャバ	13	3			7
5c	Vol.2 L.5 横尾忠則	7	1	3		
6a	Vol.2 L.6 『夫婦を乗せた陶箱』	10	1	7	3	2
6b	Vol.2 L.6 ナン・ゴールディン	3		13	7	
6c	Vol.2 L.6 ユディット・レイステル	5		9		1
7a	Vol.2 L.7 ユージン・スミス	10	1	4	1	2
7b	Vol.2 L.7 カラヴァッジョ	11	1	1		
7c	Vol.2 L.7 フリオ・カステリヤノ	11	3	4		5
8a	Vol.2 L.8 植田正治	11	2	8		1
8b	Vol.2 L.8 ギリシアの壺絵	3		6	1	
8c	Vol.2 L.8 ムンク	11	1	5	1	1
9a	Vol.2 L.9 アンゲリカ・カウフマン	7	1	8		3
9b	Vol.2 L.9 ウォーカー・エヴァンス	3		5		2
9c	Vol.2 L.9 ボルタンスキー	6	1	5	4	4
10a	Vol.2 L.10 デューラー	3	2	8	1	
10b	Vol.2 L.10 ミュシャ	7		5	1	
10c	Vol.2 L.10 バイク&モーマン	9	3	4		1

S: 今の意見を聞いて思い出したんですけど、記憶が曖昧なんですけど、海外ドラマ『LOSS T』ってあるんですけど、その中で、麻薬がアヘンをデントの中で焚いて、その幻覚作用で記憶を呼び覚ましとかやってたような感じで、その時は一人でやってたんですけど、楽器とか無かったんですけど、その類のものに近いかな。(49分37秒)

3. ナム=ジュン・バイク、シャーロット・モーマン (ナム=ジュン・バイク、シャーロット・モーマン1964-1974)より、1974年、ピーター・ムア撮影

S: 女の人が男の人をコントラバスに見立てて弾いているんだと思います。

T: Mくん、「何を言やあ、えんや？」みたいな表情ですが。(笑)

S (M): 擬人化ならぬ擬「物」化で、3枚の共通点を考えていたんですけど、あとの2枚は「ゆめまぼろし」みたいな感じで言えるんですけど、1枚目は・・・男女かな・・・と思いついたんですけど、どういう共通点を見いだせるのかなって考えていました。(笑)

T: それは僕も考えてなかったな。(笑)でも、2枚目の右下の人物はおっぱいが見えていたように思うから・・・

S (M): いや、あれ、太ってただけだと思うんですけど。(笑)

T: 確認しようか。(2枚目を投影)

S (M): おなか出てるだけじゃないですか？これ。(笑)

T: これは、たるんだおなか？胸か？女性だとしても、二人だな。

S (M): いや、1枚目は3人じゃないですか。

T: あ、登場人物としては1枚目は3人か。

S (M): だから共通点がまったく見えないっていう・・・(笑)

T: 最初におもしろいことを言ってくれただね、擬人化ならぬ擬「物」化だった。人物を物に見立てて・・・

S: なんです男性が上半身裸なかなって思って、女性の顔がいかにも真面目そうなんです、そんなに真剣にやることなかなって思いました。

S: さっき、女の人がコントラバスに見立てて弾いてるって言ってたんですけど、男の人の手が変な向き、って言うか、変な状態してる、なんでだろうと思ったんですけど、その男の人が両手で糸みたいなのをトンを張っている感じで、それがコントラバスに見立てたものの弦の部分の役割かなって思いました。

S: 女性の右手がすごくぶれているので、たぶん弾いている最中に写真を撮ったと思うんですけど、男性の背中痛くないかなって思いました。影が面白い具合についていて、実を言うと女性は裸でドレスを着ているような感じにも見えました。

S (t): 何が面白いの？何で面白いの？

S (s): コントラバスかな？って私も思ったんですけど、大ききんに、どちらかと言うとチェロかなって思って、抱えきれなくて、暗くよく見えないんですけど、男の人が脚を上げて踏ん張っているような、しゃがんでいるような体勢なので、大ききんに、コントラバスと言うよりか、どちらかと言うとチェロに見えてる方が・・・たぶんチェロだと思う。共通点なんですけど、2枚目のアルフォンソ・ミュシャは、よくポスターとかを描いたのでポスターとか、アダムとイヴの方は木の挿絵みたいだったから、そういう公の場に貼り出したポスターとか広告とかに關係している3枚じゃないかなって思いました。これも宣伝何かか。

T: ささん、管弦(管弦楽部)ですか？(笑)

S (s): 管弦です。

S: 自分も管弦楽部に所属しているんですけど、しかもジャストで、自分、チェロをやっているんですけど、たぶん僕から見ると、それはチェロだと思います。手の持ち方もさっき言う持ち方をするのはチェロの持ち方なので、3つの共通点ですけど、男女らしき人たちが映っていたと思うんですけど、特に2枚目のハープを弾いている人は、自分は、男性だと思っていました。いずれにせよ、アダムとイヴは既に誘惑されて禁断の果実をかじって、2枚目は麻薬を吸ってエクスタシーに至っている、今の3枚目を見てると、どうしてもエロティックな印象を持って、たぶん欲望とか、そういう理性に反するものが関係すると僕は思っています。

T: 弓の持ち方も違うんですか？コントラバスとチェロは、

S: はい、弓の形もちよつと。木の部分と毛の部分の幅が、コントラバスの方が広いと思います。

T: 弓も違うんだ。(へー、はい、ありがとうございます)。3つの共通点。これは鋭い、おもしろいことを言ってくれたね。さっき「なんで裸なの？」っていう話もあって、女性のドレスの上は肌が見えているし、男の人が、楽器を弾いていて、かなり露骨でいて露骨でいるから、エロティックな感じがありますよね。エクスタシー、エロティシズム、理性に対する欲望かな？この作品でこまごまとくが深まったのは初めてです。(1時間3分30秒)

【資料3】単発 Vol.2 アンケート集計結果

論考【2】資料 補足版

回答総数 14

図版	キットとの対応、作者名等	設問1(1)	設問1(2)	設問2(1)	設問2(2)	設問3
1a	Vol.2 L.1 ウォーホル	4		1		
1b	Vol.2 L.1 クレメンテ	3				
1c	Vol.2 L.1 アウスラー	5		4		3
2a	Vol.2 L.2 高品達四郎	2		2		
2b	Vol.2 L.2 国吉康雄	3		1		2
2c	Vol.2 L.2 斎藤真一	6	2			1
3a	Vol.2 L.3 ロートレック	5	2	1		
3b	Vol.2 L.3 ナクトの墓	3		3		
3c	Vol.2 L.3 レジェ	3		1		1
4a	Vol.2 L.4 ゴッホ	3	1	1		
4b	Vol.2 L.4 鈴木清方	4		3		1
4c	Vol.2 L.4 奥谷博	5				2
5a	Vol.2 L.5 マーク・タンジー	6		3		1
5b	Vol.2 L.5 ロバート・キャバ	3	1	3		
5c	Vol.2 L.5 横尾忠則	3		4		
6a	Vol.2 L.6 『夫婦を乗せた陶箱』	3	2	2		2
6b	Vol.2 L.6 ナン・ゴールディン	2		5	2	
6c	Vol.2 L.6 ユディット・レイステル	3		1		4
7a	Vol.2 L.7 ユージン・スミス	4		3		
7b	Vol.2 L.7 カラヴァッジョ	9	5			
7c	Vol.2 L.7 フリオ・カステリヤノ	6				
8a	Vol.2 L.8 植田正治	3		3		1
8b	Vol.2 L.8 ギリシアの壺絵	4		1		
8c	Vol.2 L.8 ムンク	4				
9a	Vol.2 L.9 アンゲリカ・カウフマン	8	1			1
9b	Vol.2 L.9 ウォーカー・エヴァンス	5		2		1
9c	Vol.2 L.9 ボルタンスキー	3	1	5	1	2
10a	Vol.2 L.10 デューラー	7		1		
10b	Vol.2 L.10 ミュシャ			2		
10c	Vol.2 L.10 バイク&モーマン	3		4		1